

連載

Turbo HAMLOGの 部屋

Turbo HAMLOG開発者

JGIMOU 浜田 博 Hiroshi Hamada

第11回

Turbo HAMLOG/WinのQSOデータ入力

Turbo HAMLOG/Win (以下、HAMLOGと略します) のQSOデータ入力について
本誌2025年4月号の続きをご紹介します。

Remarks1, Remarks2 (備考) の入力

His Name		QTH	
Remarks1			
Remarks2	↓キーで文字列選択/Shift+↓キーでRig選択/ダブルクリックでインターネット 移動運用の場合は、%/1 埼玉県久喜市#1332% のように入力します。		

図1 Remarks1, Remarks2の入力欄

図1は、入力ウィンドウの Remarks1, Remarks2 の入力欄で、マウスカーソルを近づけてヒントが表示されている状況です。

Remarks1, Remarks2 欄は初期設定で、いずれも半角54文字入ります。

入力する内容は自由ですが、筆者の場合は Remarks1 に自局の運用場所等を、Remarks2 に相手局に関する内容等を書き込んでいます。

↓キーを押す、またはボタンをダブルクリック

図2は、Remarks1 または Remarks2 で↓キーを押した状況です。

リストボックスが開き、環境設定の「プルダウン」タブで指定した文字列を Remarks1 または Remarks2 のカーソル位置に挿入することができます。

図3は、環境設定の「プルダウン」タブで、ここで登録しておいた文字列を入力することができます。

図2
Remarks欄で↓キーを押して
表示されたリスト

LOG-[A] IC-7410 JG4IJP [JARLmDAT 2025/02/07版]	
57回目のQSOです (00:55:44)	
Call	JG4IJP
DX	
His Name	松本
Remarks1	
Remarks2	
★hQSL user★'2	

%/1 埼玉県加須市#1310 PK埼玉県114,カス
 %/1 茨城県猿島郡五霞町 PK茨城県67,利根川
 %/1 茨城県猿島郡境町 PK茨城県083,さくら
 %/1 栃木県足利市#1502 PK栃木県125,大岩
 %/1 茨城県桜川市#1431 筑波山%
 %/1 群馬県甘楽郡甘楽町#16004A PK群馬02,
 %/1 群馬県甘楽郡下仁田町#16004B JP1320
 %/1 群馬県北群馬郡吉岡町 PK群馬139,城山
 %/1 群馬県吾妻郡高山村 PK群馬93,赤根峠

Freq	Mode
041	FT8

県米子市

会 伯耆町固定

Shift + ↓ キーを押す

図4は、Remarks1またはRemarks2でShiftキーを押しながら↓キーを押した状態で、QSLカード印刷のRig/Ant選択ウィンドウが表示されます。

図4ではRig/Ant選択ウィンドウの7番目のリグ・アンテナを選択していますので、ここでEnterキーまたはダブルクリックをすると“Rig#7”という文字列がRemarks欄に書き込まれます。

“Rig#7”という文字列がRemarks欄にある場合は、QSLカードの印刷時には周波数帯に関係なく7番目のリグやアンテナが印刷されます。

リグやアンテナは、QSL印刷ウィンドウから登録することができます。

環境設定					
設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	キー割当 7°'8'9'
No	Freq	Mode	Remarks1・2		
1	3.5	SSB	%1 埼玉県加須市#1310 PK埼玉県114,カスリ		
2	7	FM	%1 茨城県猿島郡五霞町 PK茨城67,利根川		
3	50	CW	%1 茨城県猿島郡境町 PK茨城083,さくらの		
4	144	FT8	%1 栃木県足利市#1502 PK栃木県125,大岩山		
5	430	FT4	%1 茨城県桜川市#1431 筑波山%		
6	1.25		%1 群馬県甘楽郡甘楽町#16004A PK群馬024,1		
7			%1 群馬県甘楽郡下仁田町#16004B JP1320,県		
8			%1 群馬県北群馬郡吉岡町 PK群馬139,城山み		
9			%1 群馬県吾妻郡高山村 PK群馬93,赤根峠ボ		
10					
11					
12					
13					

図3 環境設定の[プルダウン]タブ

LOG [A] IC-7410 JR0UBE Rig/Antの確認 (Enterキーで実行/Escキーで中断)									
62回目のQSOです									
Call	DX	No	Freq	Rig	Power	Ant	high	Rmks	Location Etc
JR0UBE	25/	3	3.5	IC-7410	50	逆V-DP	15	今後ともよろしく	
		4	50	IC-7300M	50	2エレ位相結	6	今後ともよろしく	50M移動
His Name	安藤"Yos	5	430	IC-9700	50	G P	13	今後ともよろしく	
Remarks1	Rig#7	6							
Remarks2		7	7	IC-7300M	50	V型DP	5	今後ともよろしく	7M移動
		8	144	IC-9700	50	3エレシンク	6	今後ともよろしく	144M移動
		9	430	IC-9700	50	6エレシンク	6	今後ともよろしく	430M移動
★hQSL user★'25/0		10	1200	IC-9700	10	G P	13	今後ともよろしく	
		11	3.5	IC-7300M	50	逆V-DP	7	今後ともよろしく	3.5M移動

図4 Remarks欄でShiftキーを押しながら↓キーを押した状況

Shift + ↑ キーを押す

Remarks1またはRemarks2でShiftキーを押しながら↑キーを押した場合でも、図4のQSLカード印刷のRig/Ant選択ウィンドウが表示されます。

図4の場合はRig/Ant選択ウィンドウのEtc欄に“7M 移動”と記載されている行を選択していますので、ここでEnterキーまたはダブルクリックをすると、“Rig = 7M 移動”という文字列がRemarks欄に書き込まれます。

Remarks欄に“Rig = 7M 移動”という文字列がある場合は、QSLカードの印刷時には周波数帯に関係なくEtc欄に“7M 移動”と記載された行のリグやアンテナがQSLカードに印刷されます。

ホームページを表示

Remarks1またはRemarks2にホームページURLやメールアドレスが書いてある場合、ダブルクリックするとブラウザやメールソフトが起動します。

ユーザーリスト等にヒットしている場合

入力ウィンドウ下部に黄色く表示された部分をマウスでドラッグしてRemarks1やRemarks2にその内容をコピーすることができます。

Ctrl + Remarks1, Remarks2 ボタンをクリック

Ctrlキーを押しながら[Remarks1]または[Remarks2]のボタンをクリックすると、頭文字入力により自局移動地を入力することができます。

図5は、Remarks1に移動運用場所を選択入力した状況です。

QSLカード印刷の際に、この自局運用場所を印字することができます。

His Name	QTH
Remarks1	%/1 東京都西多摩郡奥多摩町#10002F%
Remarks2	

図5 Remarks欄に自局の移動運用場所を選択入力した状況

QSLマネージャーのコールサイン

QSL欄の1文字目にMと入力されており、Remarks1またはRemarks2に@に続けてQSLマネージャーのコールサインが書き込まれてあれば、QSLマネージャー経由と判断し、そのコールサインをQSLカードのJARL転送枠に印字します。

【例】@JG1MOU

@に続いて3文字以上の英数混在の半角大文字であれば、QSLマネージャーのコールサインであると認識します。

CQ 1 2のチェックボックス

図6は、入力ウィンドウ上部のチェックボックスです。

☒ CQ	☐ 1	☐ 2	☐ Ins
Freq	Mode	Code	
3.531	FT8		

図6
入力ウィンドウ上部の
チェックボックス

【CQ】チェックボックス

自局のCQで交信が始まった場合や、相手から呼ばれて交信が始まった場合にレ点を入れておくことを想定していますが、使い方は自由です。使わなくてもかまいません。

【1】【2】のチェックボックス

こちらの使い方も自由です。特に必要がなければ、使わなくてもかまいません。

【1】のチェックボックスは、QSOデータを1件入力

し、または入力中の内容をクリアしても、レ点の有無に変化はありません。

【2】のチェックボックスは、QSOデータを1件入力し、または入力中の内容をクリアするとレ点がはずれます。

使い方の例としては、移動運用のときに【1】にレ点を入れておくとか、1st-QSOのときは【2】にレ点を入れておくとかでしょうか。

図7は、これらの内容がメインウィンドウの右端に表示された状況です。

図7のDC12の欄ですが、[DX], [CQ], [1], [2]の順です。また、Userの欄にHAMLOGユーザーリスト登録局はuserと、HAMLOG E-Mail QSL登録局はhQSLと表示されています。

DC12 User	
C	hQSL
C12	hQSL
C1	user
12	hQSL
D	
C1	user
	hQSL

図7
メインウィンドウ右端
のDC12欄

Ins (挿入モード)

図6の右端にInsと表示されていますが、これは文字入力の挿入モードを意味します。

文字入力が上書きモードのときは、Insの表示がありません。

Date, Time, QSLの入力項目は常に上書きモードですが、これら以外はInsertキーを押すたびに挿入/上書きの選択ができます。

Clear (クリア) ボタン

図8は、入力ウィンドウの右端です。

[Clear] ボタンをクリックすると、編集集中の文字列をQSO

図8
入力ウィンドウ右端の
ボタン

18:35:28		X
G-L	QSL	
	J	
	Clear	
	NextLOG	
	Save	

データとして保存せずにクリアします。

環境設定の[設定3]タブの[Tab キーでクリア]にレ点が入っていると、Tab キーを押しても同じことができます。

交信中にうっかり入力中の内容をクリアしてしまった場合は、[Clear] ボタンをダブルクリックするとクリア前の状態に戻すことができます。

NextLOGボタン

図8の[NextLOG] ボタンは、表示されている入力ウィンドウをLOG-[A] ⇒ LOG-[F] の順で切り替えます。

入力ウィンドウが表示されていなければ、次の入力ウィンドウが表示されます。例えば、入力ウィンドウがLOG-[A] のみ表示されている状態でNextLOG ボタンをクリックするとLOG-[B] が表示されます。

Shift キーを押しながらNextLOG ボタンをクリックすると、LOG-[F] ⇒ LOG-[A] の順で切り替えます。

PageUp キー、PageDown キーを押しても同様に切り替えることができます。

Saveボタン

図8の[Save] ボタンは、入力編集の QSO データ 1 件をハードディスク等に保存します。

初期設定では、F12 キーにも QSO データ保存が割り当てられています。

ここでは、QSO データを 1 件登録や修正するたびに、確実にハードディスク（または SSD）に書き込んでいます。

これにより、交信中に停電とかパソコンがハングアップしても安心です。…と言いたいところですが、Windows パソコンでは遅延書き込みとなっています。

この遅延書き込みとは、ユーザーが操作した直後の、パソコンの処理に余裕があるタイミングでデータの書き込みが行われるため、システムを高速化することができるものです。

書き込み処理が終わってハードディスクのアクセスランプが消えた（ほんの一瞬）後に発生した停電なら大丈夫と思います。

移動用ノートパソコンとの QSOデータのやり取り

移動運用に行くときは、自宅シャックのパソコンの QSO データをノートパソコンに移し替えていることと思います。

QSO データの移し替えは、バックアップを使うのが簡単です。USBメモリを用意し、自宅シャックのパソコンに差し込んでください。

① 図9は、HAMLOG のファイルメニューです。この中から[Zip クイックバックアップ(Z)]を実行します。QSO データを ZIP 形式で圧縮バックアップします。

図9
メインウィンドウのファイルメニュー

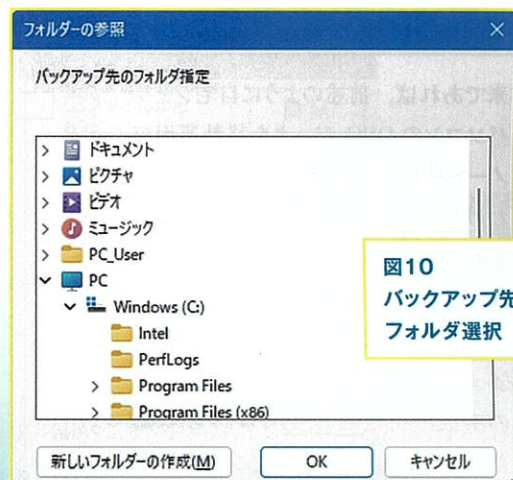
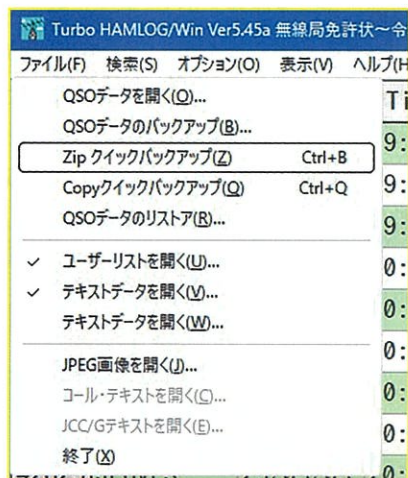


図10
バックアップ先の
フォルダ選択

② 図10 (p.175) のフォルダ選択ウィンドウが表示されますので、USBメモリにバックアップします。USBメモリを選んで[OK]ボタンをクリックするだけです。

③ USBメモリをノートパソコンに差し替え、ノートパソコンのHAMLOGを起動します。

④ ノートパソコンのHAMLOGの、図9 (p.175) のファイルメニューから[QSOデータのリストア(R)]を実行します。

⑤ 図11は、QSOデータのリストアのウィンドウで、[開く(O)]ボタンをクリックして先ほど圧縮したばかりのZIPファイルを選択します。

⑥ 図12は、ZIPファイルを選択するウィンドウで、ファイル名が“年月日_時刻_データ件数”という形式になっていますので、最も新しいファイルを選んで[開く(O)]ボタンをクリックします。

以上の操作で、自宅パソコンのQSOデータが移動用ノートパソコンに移し替えられました。移動運用から帰ってきたら、同様の操作でノートパソコンから自宅パソコンに移し替えます。

うっかり 古いQSOデータのまま 移動運用した場合

本来であれば、前述のように自宅デスクトップのパソコンのQSOデータを移動運用で使うノートパソコンに移してから移動運用するわけですが、筆者の場合これをうっかり忘れて少し古いQSOデータのまま移動運用してしまうことがよくあります、hi。

つまり、途中のQSOデータが抜けた状態となってしまうわけです。

この中抜け状態のQSOデータから最新の部分、つまり移動運用で交信してき

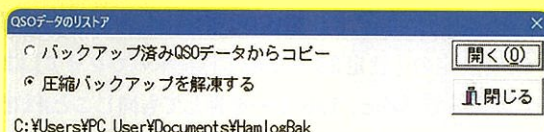


図11 バックアップしたQSOデータをリストアする(戻す)ウィンドウ

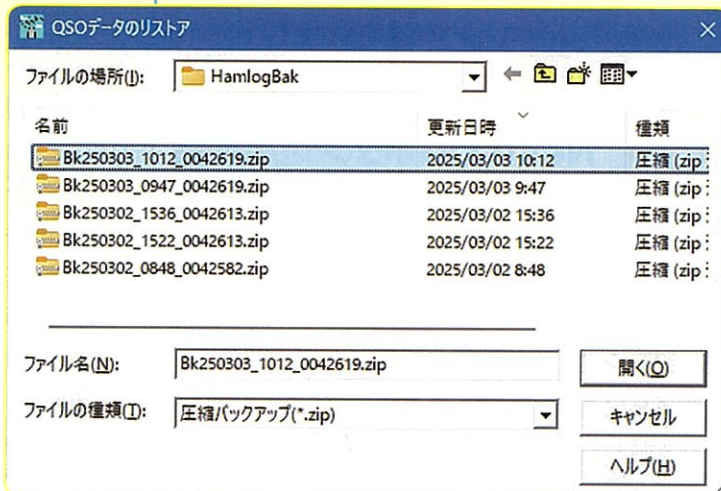


図12 Zip圧縮バックアップファイルを選択

たQSOデータだけを取り込む機能をご紹介します。

データのインポート

図13は、[オプション]メニューから[データの保守]サブメニューを開いた状況です。

図14は、サブメニューから実行した[データのインポート]で、USBメモリなどにあるデータを読み込んで組み込むことができます※1。

USBメモリには、移動運用の成果であるQSOデー

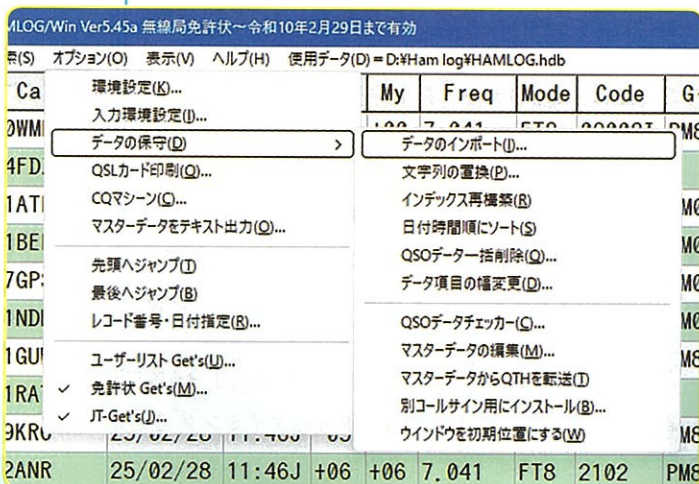


図13 メインウィンドウのオプションメニューとサブメニュー

タ (HAMLOG.HDBファイル) をノートパソコンからコピーしておいてください。

QSOデータのコピーは、図9 (p.175) のファイルメニューの [Copy クイックバックアップ (Q)] によりUSBメモリにコピーするのが簡単です。

① QSOデータは、通常 HAMLOG.HDBファイルです。図14のように [HDBファイルから] を選択しておきます。

② 図14の [開く (O)] ボタンをクリックし、USBメモリにある移動運用してきたQSOデータを開きます。

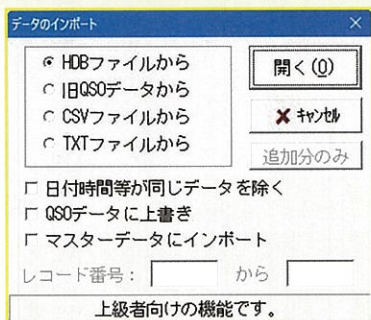


図14 [データのインポート] ウィンドウ

③ 図15は、USBメモリ上の HAMLOG.HDB ファイルを選択し、開く直前の状況です。

④ 図16は、USBメモリ上の HAMLOG.HDB ファイルを開いた状況です。ここで [追加のみ] ボタンをクリックします。

⑤ 図17は、図16の [追加のみ] ボタンをクリックして表示されたメッセージボックスで、移動運用した時の最初の交信が表示されます。よろしければ、[OK] ボタンをクリックします。

⑥ 図18は、インポートする最初のレコード番号として移動運用した時の最初の交信がセットされた状況です。[開始] ボタンをクリックすると、さらに確認のメッセージが表示されますので [はい (Y)] をクリックすると、ほぼ一瞬でインポートが完了し、HAMLOG はいったん終了します。

以上の操作で、移動運用してきた分だけ (差分だけ) インポートが完了です。

それでは、次号に続きます。

㊞

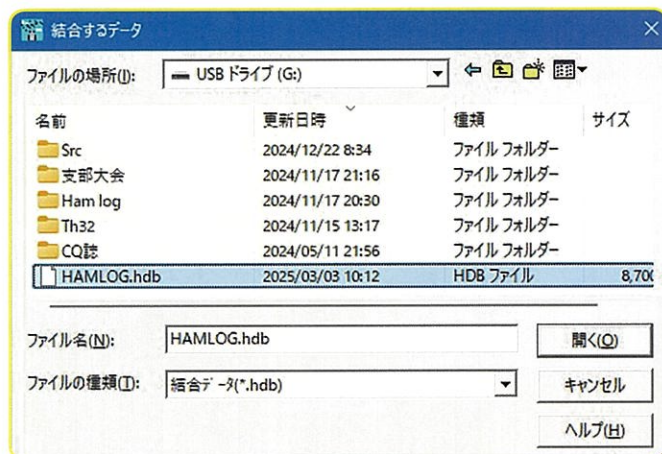


図15 USBメモリ上の HAMLOG.HDBファイル

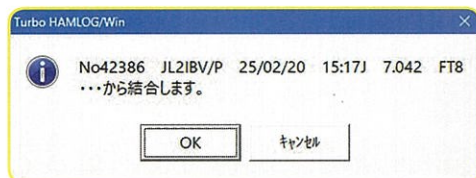


図17 インポートしたい最初のデータであるかの確認

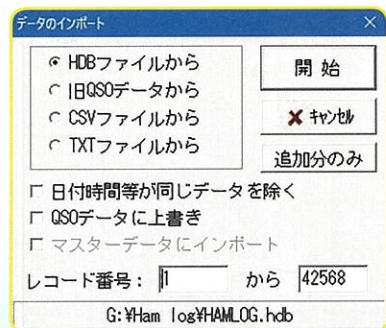


図16 USBメモリ上の HAMLOG.HDB ファイルを開いた状況

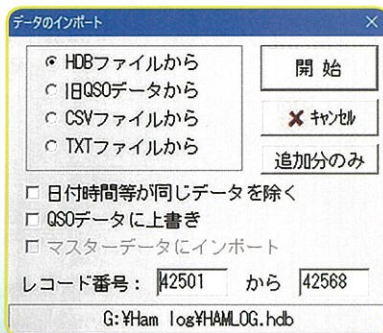


図18 インポートする最初のレコード番号がセットされた状況

※1 データのインポートは、他のファイルの内容を現在使用中の QSO データやマスターデータにインポート (取り込み) する機能で、使い方を誤ると同じデータが二重に登録されたり、データを消してしまったりする恐れのある上級者向けの機能です。しかし、[追加のみ] ボタンを使えばこれらを気にすることなく簡単にインポートすることができます。